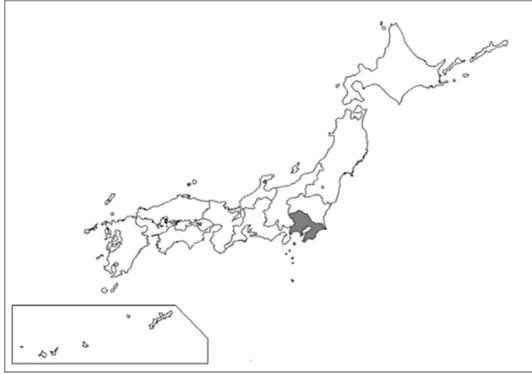


## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

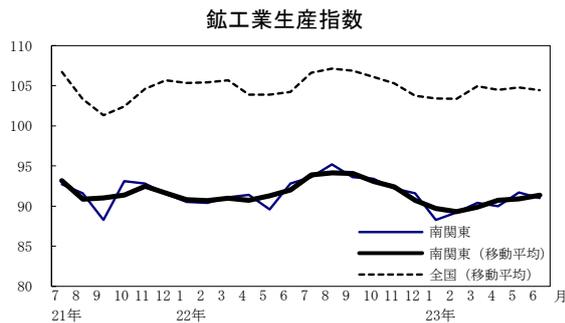
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和5年5月)	今回 (令和5年9月)	
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比1.8%増となった。月別にみると、4月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により前月比0.4%減、5月は「輸送機械」が増加したこと等により同1.9%増、6月は「輸送機械」が減少したこと等により同0.8%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラスチック	22.2	▲1.7	▲2.6	▲0.7	▲2.2	1.6
輸送機械	14.1	▲7.9	8.6	▲0.7	10.8	▲8.0
汎・生産・業務用機械	13.7	▲3.7	4.0	▲2.6	5.2	0.3
電子デバイス、電気・情報通信	12.6	▲3.6	3.3	2.9	1.0	▲0.8
食料品・たばこ	12.4	▲3.0	—	▲0.5	1.1	—
鉱工業	100.0	▲3.4	1.8	▲0.4	1.9	▲0.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4－6月期、6月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。

3. 業種は内閣府にて分類。

(備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。

南関東の最新月は速報値。

2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

3. 南関東は内閣府にて算出。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

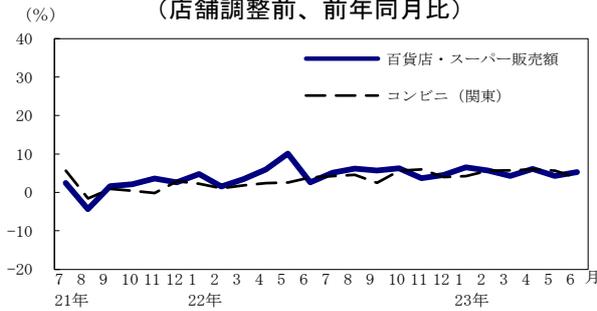
### (1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

4-6月期は前期比0.3%減となった。月別にみると、4月は前月比0.8%減、5月は同0.9%増、6月は同0.2%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比5.2%増となった。月別にみると、4月は前年同月比6.1%増、5月は同4.3%増、6月は同5.3%増となった。

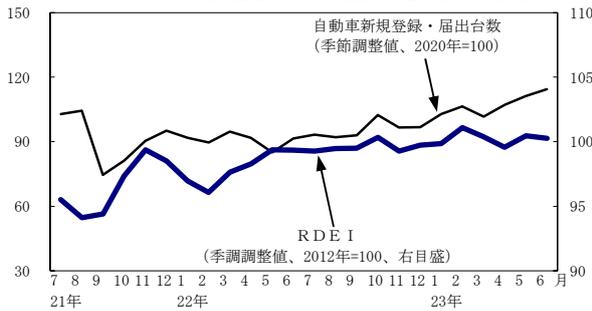
百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDE I (消費*1)	▲0.3	▲0.8	0.9	▲0.2
百貨店・スーパー(*2)	5.2	6.1	4.3	5.3
コンビニ(*3)	5.1	6.0	5.6	3.8
乗用車(*4)	23.9	16.5	31.8	24.2
(季節調整値) (*4)	7.1	5.5	3.7	2.9

- (備考) 1. 季節調整前(前期)比 (%)  
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
 コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。  
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

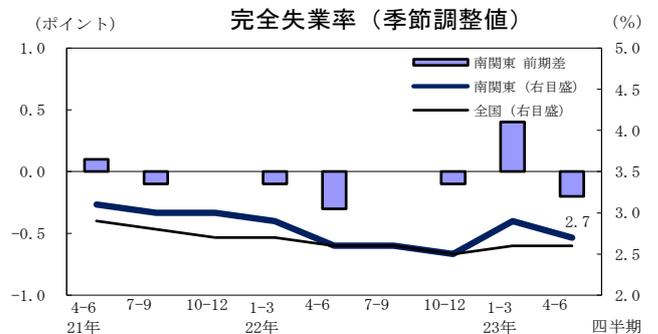
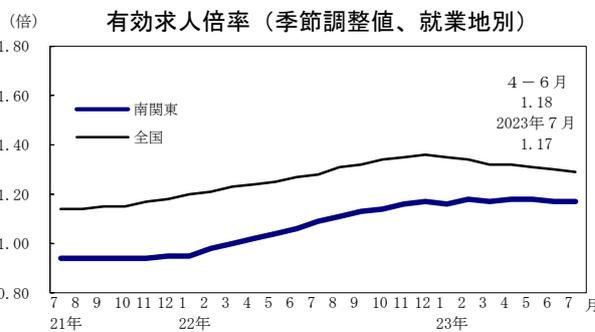
RDE I (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は上昇しており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由	
	現状	家計 動向 関連	□	・ 今月は、天候に恵まれ、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行し、外出機会がやや多くなり、来客数が増えている。ただし、ここに来て猛暑続きで、日中は客が出てこない。プラスマイナスを考慮して、今月に関してはやや良い状態である（スーパー）。
○			・ 来客数が増えている。需要も高まりつつある（一般小売店 [祭用品]）。	
▲			・ 猛暑のため、客の来店頻度が鈍っているような気がする（美容室）。	
企業 動向 関連		□	・ 経済の活性化により、企業などの売上は伸びているものの、原材料の価格高騰により数値の方は決して上向きにはなっていない（金融業）。	
		○	・ ホテル部門の宿泊予約は順調で、価格も上昇基調である（不動産業）。	
		▲	・ 観光地や飲食店の混雑は、新型コロナウイルス感染症発生前の好況が戻りつつあるように見えるが、当業界では、輸送量、納品先店舗の減少が続くなか、低廉な運賃と資材価格の高騰で収支が悪化している（輸送業）。	
雇用 関連		□	・ 求人職種、採用者数等の大きな変化はない。また、求職者数にも大きな変化はみられない（民間職業紹介機関）。	
		○ ▲	・ 新規求人数は前年比で20%以上の伸びが続いている。事業主からも、資源価格の高騰が一段し、人材確保に本腰を入れる余裕ができたという声が多く聞かれる（職業安定所）。 ・ 派遣求人数は3か月前比、前年同月比共に10%弱下回っており、全体的なトレンドとしても減少傾向にある。人材紹介の求人数は3か月前比、前年同月比共に10%以上上回っており、中途採用意欲は引き続き高い状況である（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			○：今年の猛暑と、新型コロナウイルス感染症の影響が和らいだことで、タクシーの利用者がやや極端に増えている（タクシー運転手）。 ×：7月は猛暑の影響も大きく、日中に来場する客が通常の3分の2まで減っている。特にシニア層の減少が大きい（ゴルフ場）。	
先行き		家計 動向 関連	□	・ 当社では、今年から復活したお祭り等の関連商材が大分売れているため、良い数字を残せそうである。しかし、品不足や価格の高騰による弊害も出ており、納期も遅れている。商材の値上がりと納期の遅れという不安材料もあり、この先どうなるか心配している部分もある（衣料品専門店）。
	○		・ 新型コロナウイルスの新規感染者数は増加しているが、人流は更に拡大するとみている。今まで抑えていた売出しの企画も実施する予定であり、期待している（百貨店）。	
	企業 動向 関連	□	・ 物価が上昇している割には全体的に給料が上がっていないため、景気は中長期的には良くなるだろうが、短期的にはなかなか難しい（建設業）。	
		○	・ 国内の受注は横ばい傾向だが、海外からの受注が増加する予定である（化学工業）。	
	雇用 関連	□	・ 業種、業界にもよると思うが、人材不足の状況は続く（人材派遣会社）。	
	その他の特徴 コメント			○：インバウンド需要の拡大による小売、飲食、観光の各業界の人材不足感の高まりから、事業主の採用意欲は非常に旺盛である（職業安定所）。 ×：素材、エネルギー価格の高止まりや、業務要員不足の長期化などの構造的問題は解決の見通しが立たない。要員不足による機会損失の発生などの悪材料も依然として根強くあり、固定費の回収に苦慮する環境は変わっていない。価格転嫁も容易ではなく、利益を創出できるような状況ではない。今後も物価上昇圧力が一段と加速する可能性が高く、景気改善に重大な痛手となることは不可避である（ゴルフ場）。

(D I) 現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

